

モモならたけもどき病

英名 : Clitocybe root rot

病原 : *Armillariella tabescens* (担子菌類)



発病により衰弱した樹
(葉の黄化)



被害根の症状(白色部位が菌糸)



主幹の症状(ヤニが吹き出した樹皮下に白色菌糸が見られる)

生態と防除

発症部位 : 幹、根

発生の経過 : 病原菌は、果樹(ナシ、モモ、ブドウなど)、林木(マツ、スギ、カシワなど)など数多くの樹に寄生する。
病原菌は被害根上で生存する。
被害根と健全根の接触が伝染の重要な経路である。

発病条件 : 本病の進行が著しいと、葉は黄化して早期落葉し、さらに進むと枝が枯れ、やがて樹全体が枯死する。
主幹では地上くらいまでヤニが吹き出し、この部分を削ると白色の菌糸が認められる。
根や幹の枯死部からは、ときにキノコの発生が見られる。
山林に近い園で発生が多い。

防除 : 登録薬剤がないため、耕種的防除が主となる。被害根を丁寧に取り除く。